

# 定通部だより

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>  
メールアドレス [info@nagasaki-kokyoso.org](mailto:info@nagasaki-kokyoso.org)

2011年  
8月5日発行  
第2号  
発行責任者  
今泉 宏

## 第22回定通部定期大会

月日 7月16日(土) 高教組会館 10:30~12:30

議運 木倉保夫(鳴滝夜) 議長 江頭清隆(佐工定) 記録 濱本功二(大村定)

出席 11分会中9分会が出席、委任状2分会で大会が成立、出席者は傍聴を含め17人

定員割れが続いている定時制、学科もあるが、安易な廃科、統廃合を行わせないような運動が必要だということを確認。また、教育条件整備では、全定時制、通信制高校にエアコンを県費でつけること、通信制への常勤養護教諭配置、講師に頼らない教職員配置などを県に要求することを決めた。「定時制・通信制教育の充実を求める署名」は今年度は全日制分会にも依頼し、より多くの声を文科省に届ける方針を決定。インターンシップの機会均等についても論議した。

## 県教研「定通分科会」

### テーマ「定通制高校における学習上の諸問題」

月日: 7月16日(土) 高教組会館 13:30~16:30

司会者 前田 安彦(佐中昼) 記録者 今泉 宏(鳴滝夜) 参加者 15人

#### 一. 提出レポート

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| ①「内心にまで踏み込む日の丸、君が代強制」        | 福田 光芳(鳴滝通)       |
| ②「問題行動生徒への対応~万引き」            | 森 文明(鳴滝夜)        |
| ③「生徒が希望を持ち、未来を語れる 進路指導への道は？」 | 福田 光芳(鳴滝通)       |
| ④「進路指導を振り返って」                | 川内 裕之(鳴滝夜)       |
| ⑤「佐世保工業定時の報告」                | 近藤陽志夫・江頭 清隆(佐工定) |
| ⑥「大村高校定時制における英語の授業」          | 濱本 功二(大村定)       |
| ⑦「基礎学力確認テストを通してみる生徒の実態」      | 今泉 宏(鳴滝夜)        |

#### 二. 討議の概要

##### ① 福田レポート(一)

2011年6月、大阪府の橋下徹知事並びに大阪府議会の過半数を占める平成維新の会は「君が代起立斉唱条例」を成立させた。また、時を同じくして「君が代起立命令合憲」の判決。

流れ強まる強制指導、管理化に対して、物言

わぬ職場。この国の進む方向に危機感を感じた福田氏が1999年「国旗および国歌に関する法律」制定時と今年の「君が代起立斉唱条例」「君が代起立命令合憲」の新聞記事を提示し、問題提起をおこなった。憲法が定める「思想・良心の自由」が制約されているという危機感をもち、

声をあげていく大切さを感じたレポートだった。

## ② 森レポート

昨年度担任をしていた生徒が起こした万引きの指導での実践報告。単に反省文を書かせるだけではなく、絵本を使って本の感想を書かせることで、絵本の主人公と自分を同化させ、生徒の気持ちを引き出す指導により、より反省を深めることができたという実践。一人の感性ではなく、いろんな人が読んだ本を出し合って、チームで指導していくと様々な指導に生かせるのではないかと感じた。

参考文献 絵本「あかいセミ」 (福田岩緒作・絵 文研出版)

## ③ 福田レポート (二)

過去十年で最高と報道された県内の就職率。しかし、現場においては数字とはかけ離れた現状がある。福田氏が通信制で経験した、生徒の厳しい現状。今年の卒業予定者のうち就職希望者が七十から八十名近くいると思われるが、実際就職できるのは、毎年せいぜい十名前後。出口の指導としてはたしてこれでよいのだろうかという問題提起がなされた。地域にはさまざまな若年者の自立支援があり、そのような支援を利用させたいが、通信の生徒の中には「サポートステーション」などに行くことができない生徒もおり、通信制生徒の若年化と共に出口の指導の難しさが報告された。

## ④ 川内レポート

四年間持ち上がった生徒を今年三月卒業させた担任としての進路指導に関するレポート。これまでの生徒との関わり、進路指導、進路先が一覧表にまとめられ、川内氏の苦労が伝わる報告だった。生徒の夢を実現させるために、生徒一人ひとりの性格を細かく分析し、生徒と粘り強く接しながら指導した結果、指導を通して見えてきた、県内、県外企業の特性、本校生徒に足りないものには説得力があった。

## ⑤ 近藤・江頭レポート

昨年に引き続き、佐世保工業定時の現状報告。今年度は定通体育大会で四種目が全国大会出場するなど部活動の頑張りが見られた。佐工定での特徴的な取り組みとして、進路ガイダンス、月一度のPTAとの校外巡視、発明創意工夫作品などの報告があった。しかし、その一方で上級生を中心として、始業にわざと遅れる生徒、携帯を授業中に触って授業を抜ける生徒などの問題を抱える生徒の実態報告も行われ、粘り強い指導の必要性が確認できた。

## ⑥ 濱本レポート

英語の授業を通してみる、生徒の実態報告。大村定時はここ数年受験生が定員を上回り、四十名の新生が入学している。そこで、一年生を二十名ずつの二クラスに分け、さらに数学は習熟度別に二つのクラスに分けて授業を行っている。英語の授業もアルファベットを覚えさせることから始めているが、生徒の苦手意識が強く、英語への関心が低い。いかに生徒を授業に参加させるか、生徒とのコミュニケーションをとることの難しさを日々感じながら取り組んでいる濱本氏の苦労が伝わった報告であった。

## ⑦ 今泉レポート

鳴滝夜間で昨年度から取り組んでいる、基礎学力確認テストに関するレポート。取り組み二年目となり、新生生のデータを二年分比較したところ、今年度の新生生は昨年度よりどの教科とも基礎学力不足の生徒が多いことがわかった。そのことが生徒の落ち着きのなさ、生徒指導上の問題にもつながっているのではないかという報告がなされた。また、二年生で新たに行ったテストでは、一年次との相関は強いものの、少しずつ力をつけている生徒もおり、個別に根気強く指導していくことが大切であるとの報告がなされた。

**交流会 9名参加(鉄橋での教育署名活動後、「とめ手羽」中央橋店にて開催)**